



主な意見交換

今回の協議会では、「あさひばし子どもの水辺」の設立趣旨や協議会の役割、子どもの水辺の周辺環境などの説明とともに、今後の登録に向け、協議会の名称や運営要項などに関する確認が行われました。さらに意見交換として、参加者それぞれの立場に基づいた貴重な意見が交わされました。

あさひばし子どもの水辺協議会

■活動理念

石狩川や旭橋、常磐公園や河川公園など、旭川市民の憩いの場でもある立地特性を生かし、子どもたちが生き生きと川に親しめる水辺づくりを進めます。

この地域に集積された各種公共施設との連携に努め、さまざまな楽しみ方を通じて、環境やマナー教育につながる「地域協働型のプログラムづくり」を進めるとともに、その成果を広く石狩川上流域や全国へ発信します。

■5つの基本方針

- ①市民参加を図り、公共施設と連携しながら多目的な活動を支援します。
- ②さまざまな水辺体験を適切にサポートする体制と環境を整えます。
- ③みんなが安全に遊ぶためのマナーやルールを学ぶ場をつくります。
- ④河川空間での体験を通じ、「川と人との共生」の大切さを啓発します。
- ⑤水辺づくりの成果を広く発信し、各地との交流を深めます。

本協議会の設立背景と今後の展望について

- 「[川のおもしろ館]」を拠点に、常磐公園や旭橋周辺に点在する施設を“線”としてつなぎ、子どもたちが楽しく育っていける水辺環境をつくりたい」との話を聞き、大変よいアイデアだと感じた。
- 現在、永山や旭橋の他にも、地元のNPO団体が新たに「子どもの水辺」への登録を希望しているため、これが実現した際には、旭川の

子どもの水辺同士がともに連携し、旭川における水辺ネットワークの形成をめざしていきたい。

「あさひばし子どもの水辺」の周辺環境について

- 北海道遺産の「旭橋」や「石狩川」の他、常磐公園や市立病院なども位置し、市内でも高度に利用されているエリアの一つである。
- また、H14年度の「川の通信簿※」で、「相当良い、満足感を味わえる」の評価に相当する4つ星を獲得した「リベライン旭川パーク・フラワーランド」では、現在、バリアフリーを意識した整備が進んでおり、福祉公園としての活用も期待される。
- さらに今年度は、「冬の旭川を歩こう」と題した取り組みとして、旭橋周辺の堤防の上を試験的に除雪し、通勤・通学等に利用できる周回コースを設置した。

登録名称・運営要項などの確認について

- 「協議会」という響きは、市民に訴えかけるにはいささか堅い気がする。「あさひばし子どもの水辺」という登録名称はこのままで、協議会名については、後日、市民より愛称を公募してみてもどうか？
- 「協議会は、河川管理者、教育委員会、学校、市民団体関係者が連携して組織する」との運営要項については、公園管理者なども関係してくるので、「行政」という項目を追記した方がよい。

さまざまな立場からの意見交換について

- かつては旭橋周辺の川でよく泳いで遊んだものだが、今ではそのような風景も見られなくなった。その意味でも、子どもが水辺で遊べるような環境づくりが推進されることは大変喜ばしい。
- 「あさひばし子どもの水辺」の中心スポットであるフラワーランドの噴水は立入禁止になっ

ているが、ここで子どもたちが水遊びできるような仕組みづくりはできないものか。

- 同様に、フラワーランドがある旭橋上流左岸の水辺は、季節によって水量が大きく変化するため、子どもたちへの安全対策について具体的に検討していくべき。
- フラワーランドは、旭橋下流のコミュニティランドやドリームランドに比べ、認知度が低いいため、もっと利用される方法を探っていくべきだと思う。
- 雪解け後に、このメンバーで現地を歩き、どのようにすれば多くの人々が水辺に親しめるか、再び意見交換をしていきたい。

※「川の通信簿」:国土交通省と市民団体が全国の河川空間の満足度を調べるアンケート調査



座長を務めた北海道教育大学の山形名誉教授



旭川開発建設部 治水課の羽水課長補佐



旭川市立大町小学校の千代校長



児童クラブ ホロホロの谷地元代表



旭川春光会の増子理事長



北海道ウォーキング協会の加藤主席指導員

「あさひばし子どもの水辺協議会」

登録対象エリアの環境について



「あさひばし子どもの水辺」周辺マップ



石狩川と牛朱別川の合流地点に位置する「あさひばし子どもの水辺」



活動の拠点施設となる「川のおもしろ館」



「福祉の川づくり」